

静岡・秋合遺跡 あきあわせ

- 1 所在地 静岡県藤枝市南新屋字白山
- 2 調査期間 一九八四年(昭59)一月～一九八五年二月
- 3 発掘機関 藤枝市教育委員会
- 4 調査担当者 八木勝行・鈴木隆夫・磯部武男
- 5 遺跡の種類 官衙跡
- 6 遺跡の時代 奈良時代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

秋合遺跡は、国指定史跡志太郡衙跡より低丘陵を挟んで東側に隣接する水田地に存在する。一九七八年の調査によって掘立柱建物や



(家山・静岡)

井戸が検出され、出土した三七点の墨書土器の内容から志太郡衙跡ときわめて密接な関係にある遺跡として注目された。

一九七九年以来、秋合遺跡の性格把握と範囲確認のための調査を実施してきたが、今回の第四次調査によ

8 木簡の釈文・内容

って奈良時代の比較的大規模な掘立柱建物、土器類や木製品類と共に二点の木簡を発見した。木簡が出土したのは、遺跡の南西隅で、当時の低湿地に面した微高地の縁部である。(1)は遺物包含層中より、(2)は掘立柱建物(SB〇四)の柱穴埋土中より出土した。

(1) [卷カ]

(39.5)×24×8.5 081

(2) [不カ]

(92)×(22.4)×6 081

二点共に両端を折られた細片であり、字数も少ないので内容を伺うことは困難であるが、(2)は「不」の文字が二字連続する可能性もあり、習書木簡の一部とみられる。

9 関係文献

藤枝市教育委員会『秋合遺跡発掘調査報告書Ⅲ』(一九八五年)

(磯部武男)

